

## 第1回兵庫県立大学評価委員会 議事録

1 日 時 平成 18 年 10 月 6 日 (金) 14:00~16:10

2 場 所 兵庫県公館第 2 会議室

3 出席者 (委員)

大南委員長、西門委員、西川委員、米田委員

(県立大学)

熊谷学長、天野副学長、鈴木副学長、南副学長、阪本副学長、

井筒事務局長、福井事務局副局長兼総務部長、

大塚事務局企画調整部長、竹島事務局学務部長

(県)

井戸知事、辻井企画管理部長、大原企画管理部教育・情報局長、

杉原企画管理部教育・情報局大学課長

### 4 議題等

(1) 開会

(2) 挨拶

#### ① 井戸知事

- ・ 大学の業務を評価する場合の視点、物差しは非常に悩ましいところであるが、県民を代表する形で、また大学内の常識とは違った視点でご意見を頂戴したい。
- ・ 旧 3 大学を統合し 16 年 4 月に発足した新県立大学のねらいは、それぞれの強みを生かして総合力を発揮すること、つまり「専門性」と「総合性」である。また、世界に羽ばたく人材の育成もねらいとしている。
- ・ 委員の皆様には、現計画の 3 ヶ年について評価いただくだけでなく、次期計画に反映させるため、足らざることをご指導いただき、伸ばすところを伸ばす、また県民の期待もご指摘いただきたい。

#### ② 熊谷学長

- ・ 3 つの県立大学を統合し 16 年 4 月に発足した本学も開学 3 年目に入った。
- ・ 統合による相乗効果と総合大学の持つ利点を最大限に生かし、異分野間の融合を重視した教育と研究を行なうとともに、人間性豊かな人材の育成に努めている。
- ・ 更に、平成 19 年度からの開学を目指して、会計専門職大学院の設置準備を進

めているほか、中高大の連携による一貫教育を実現するための附属中学校の創設の準備等新たな取り組みを行っている。

- ・ 第1期中期計画について評価いただくとともに、評価委員の皆様方からの意見は第2期中期計画にもできるだけ反映させて参りたい。

(3) 出席者紹介

(4) 大学の概要

県立大学より説明

(5) 議事

① 委員長選出

大南委員を委員長に選出

② 兵庫県立大学評価委員会運営規程の制定について

事務局より資料1、資料2、資料3にて説明し、案のとおり決定する。

③ 評価の基本的な考え方について

i) 中期計画の概要説明

県立大学より参考資料1、参考資料2にて説明。

ii) 評価の進め方について

事務局より資料4にて説明し、協議を行ない、基本的に了解を得る(5 参照)。

iii) 評価の視点について

事務局より資料5にて説明し、協議を行ない、基本的に了解を得る(5 参照)。

④ 今後のスケジュール

事務局より資料6にて説明し、了解を得る。

⑤ その他

(6) 閉会

5 協議内容(主な質疑、意見等)

【(評価の前提である) 中期計画について】

- 計画自体に数値目標、時期の明示がないが、これでよいのだろうかと思う。
- 現計画はどのように立てられたのか。
- ⇒ 第1期計画は、大学のあるべき姿や方向を示した新県立大学基本計画を踏まえて、開学当初の3年間にそれらをどう具体化していくか、という観点から策定したものである。
- 次期計画はどのように作られるのか。(本委員会は、評価を行なうだけでなく) 中期

計画自体のあり方などにも意見を述べてよいのか。

⇒ 第2期計画については、本委員会の意見を参考にしつつ、学内各部局の提案・計画等を集約して次の3年間の計画を策定したいと考えている。

○ 各項目にプライオリティがあって、1年目でどこまでやる、その先にはこれをやるというスケジュールはあるのか。

⇒ 計画策定時にはプライオリティは設定しなかったが、各項目の担当部局と年度毎の推進予定を示す推進予定表を作成しており、平成17年度に行った自己点検・評価のなかでは「推進予定」という欄を設けている。

○ 最終的な長期目標をどこに置くのか、ということがないといけないと思う。

#### 【評価の進め方について】

○ 大学の評価は定性的になりがちだが、国立大学法人の場合もそうであるように、数量評価もうまく組み合わせながら評価を進めていくことが強く求められている。

⇒ 今回は、統合後間もない、初めての評価であり、かなり定性的な評価になると思う。

第2期計画の評価をするにあたっては、別途、認証評価機関による評価を受けなければならないこともあり、かなり定量的な評価も入れていかなければならないと考えている。

○ なぜ（学生が卒業する）4年間ではなく、3年間で評価するのか。

⇒ 国立大学法人が中期計画の期間を6年で定めており、本学はそれを念頭に前期3年の計画を定めた。

○ 高校側から大学を評価する観点に加え、大学生が評価することが必要ではないかと思う。

⇒ 大学生による授業評価を統合後全学的に導入しており、全授業について学生の評価を集約している。また、将来的には、卒業生による評価も検討にしている。

⇒ 入試説明会、高校へ出向いての講義、一般県民への公開講座等を実施しているが、高校生・受験生への理解を深めることは非常に重要で、これからもできるだけ力を尽くしたい。

○ 達成の度合いで「非常によくできている」ところは、何かインセンティブのようなものがあるのか（報酬に跳ね返る等）。ないのであれば、改善されないのではないかと思う。

### 【評価の視点について】

- 今回の評価の主題は「大学の統合・改革の取り組み」ではないかと思う。企業の場合は、数値目標を持っており、計画の進行過程で数値目標を修正していくというのが一般的なやり方だが、今回の評価は、とりあえず統合・合併の成果を確かめようということと理解した。
  - 先輩、後輩の流れのなかで、在生が見ている新しい大学という視点と同時に、同窓会の先輩たちが見ている新しい大学という視点も必要だろう。
  - 3大学が統合されたことにより、学生はどのようなメリットがあったと実感しているのか、大学側はアンケート等で学生の声を吸収しているか。
- ⇒ 個々の講義については、毎年度2回「授業評価アンケート調査」を実施している。統合前の3大学と比べて、総合大学になったことによって、他学部の講義科目の中から入門的な科目を受講できる「他専攻科目」の受講など、学生にとってのメリットはいくつもあると考えている。
- ⇒ また、平成17年度に1、2年生を対象とした「学生生活実態調査」を実施しており、結果については、第2期計画のなかに反映させたいと考えている。